

健康な会社には、志、使命感、謙虚さ、勉強熱心さを併せ持つ経営者がいる。

「健康な会社の条件」とは、ズバリ、どんなものなのか。

「健康で強い組織づくり」を支援するレアリゼ眞田茂人社長が、株式会社経済界や経済界倶楽部での事務局長という要職を通じ、多数の経営者と会って来た水上孝一氏にその核心を聞いてみた。

超一流と呼ばれる経営者ほど、自分に厳しく、人に優しい。まわりが見えている。

【眞田】水上さんは経済界にどれぐらいおられたんですか。

【水上】1980年から2005年

判断されているんでしょうか？

【水上】いや、言葉にするのは難しいですね。お会いした瞬間、イヤな人だな、と思ったらダメ。自然に会話ができる人なら大丈夫とか。

【眞田】それは人間性でしょうか。

【水上】人間性や性格ではないかと思いますが。超一流と呼ばれるような経営者の方になればなるほど、人に優しくなれるのではないかと。

【眞田】気配りや気遣いですね。

【水上】そうですね。自分に厳しく、人に優しい。まわりが見えている。ダメな経営者ほど、自分勝手だし人の言うことを聞かない。

【眞田】確かにそうですね。

超一流の経営者は、人の話を聞く。新しいことに対して勉強熱心で、かつ社内の人の話も耳を傾ける。

【水上】超一流の経営者の方は、とても話しやすい方ばかりですよね。私のような者の話でも、聞きたがるんです。勉強家なんですよ。

【眞田】経済界倶楽部の事務局長の時には、倶楽部主宰の勉強会なども多数催されていたそうですが。

【水上】はい、よくやっていましたね。そういう勉強会に、やはり超一流と言われるような経営者の方はよく顔を出しておられましたよ。ご熱心ですね、など思ったこと

【眞田】怖いですね(笑)。たとえば10年、20年前にお会いした経営者の方で、当時すでに「この方は成功する」と予想して、実際に成功された方はどれくらいいますか。

【水上】駆け出しの頃からトータルしたら、半々ぐらいでしょうか。次第に磨かれて、8割方は予測できるようなったという。

【眞田】ますます怖いですね(笑)。それは一体、どんなところを基準に

【水上】大いにありますね。

【眞田】「健康」どころか「不健康」な会社の状態ですね。

【水上】また苦言ですが、最近の若い経営者の方を見ると、どうも金儲けへの意識が強過ぎて、自分の会社が社会でどんな役割を果たさなくてはいけないか、という使命感に欠けている気がします。かつての威厳ある経営者の方々は、資金調達ルートも限られているし、自分の考えた事業に対する思い入れや使命感が今よりも強かったのでは、と思います。中には、日本の将来を考えて事業を遂行していた人だって少なくありませんでしたから。

【眞田】志が高かったんですね。

【水上】今、成功している経営者の方々にも、さらに高い志を持っていただきたいと思いますね。たとえばアメリカで日本人経営者が成功するなんて、高い志ではないですか。

【眞田】そうすると、「健康な会社」に不可欠なのは、経営者の高い志と使命感、謙虚さ、そして勉強でしょうか。

【水上】そうですね。やはり「会社の健康」を突き詰めていけば、経営者の資質に行き着くと思います。

【眞田】よくわかりました。今日は有意義なお話をたくさんいただき、ありがとうございます。

高い志、使命感、謙虚さ、勉強。

経営者の持つ資質が、「会社の健康」にも直結する。

【眞田】部下の話しを真摯に聴くには、謙虚さが必要です。しかし、謙虚さを失った経営者は、往々にして暴走し、会社を私物化してしまいう傾向があるように思いますが、どうでしょうか。

インタビュー

アジア経営者連合会 会員企業
株式会社レアリゼ 代表取締役社長
NPO法人日本サーバント・リーダーシップ協会
理事長

眞田 茂人氏

【プロフィール】

1962年大阪府生まれ。早稲田大学卒業後、株式会社リクルート、外資系金融機関、人材教育研修会社設立を経て、2001年に株式会社レアリゼを設立。人を成長させ、社会に貢献しながら健全に成長し、継続的に発展する「健康で強い組織づくり」を支援している。著書『「自律」と「モチベーション」の教科書』(CEO BOOKS)



アジア経営者連合会 理事会顧問
株式会社ケイ・エム・シー 代表取締役社長
元 経済界倶楽部 事務局長

水上 孝一氏

